

- ・果 樹：施用量は成木の年間の施用量で、原則として収穫後に施用し土壌と良く混和する。
 施用法は樹種により異なる場合があるので、「栽培指針」に従う。
- ・茶：年間の施用量で完熟したものを秋に施用し、土壌とよく混和する。
- ・飼料作物：作付け10日～15日前までに全面散布し耕起する。

6 たい肥施用量と化学肥料施用量（以下、「施肥量」という。）の計算事例

露地野菜

さといも（普通・えぐ芋）における各種たい肥施用量と施肥量の計算事例

(1) さといもの施肥基準における肥料成分施用量（たい肥+化学肥料の合計成分量）

①から③により計算（kg/10a）

窒素	リン酸	カリ
30.2	39.4	39.2

① 施肥基準でのたい肥施用量と3要素施肥量(kg/10a)

たい肥	窒素	リン酸	カリ
3,000	23	25	20

② たい肥から供給される成分量(kg/10a)

	たい肥施用量	成分含量	肥効率	
窒素	3,000	× 0.008	× 0.3	= 7.2
リン酸	3,000	× 0.008	× 0.6	= 14.4
カリ	3,000	× 0.008	× 0.8	= 19.2

③ 成分施用量（施肥基準におけるたい肥と化学肥料の成分合計量、kg/10a）

	施肥量	たい肥成分量	
窒素	23	+ 7.2	= 30.2
リン酸	25	+ 14.4	= 39.4
カリ	20	+ 19.2	= 39.2